

メッセージ 2

使徒パウロの二つの最大の祈り

聖書：エペソ1:17-23. 3:14-21

- I. エペソ人への手紙にあるパウロの第一の祈り(啓示を求める祈り)において、彼が祈っている事は、わたしたちが知恵と啓示の霊を持ち、わたしたちの心の目が照らされて、神の召しの望み、聖徒たちの中にある神の嗣業の栄光の豊富、信じるわたしたちに働く彼の力の超越した偉大さを知るようにということです——エペソ1:17-23：
- A. わたしたちは、神の友、すなわち、神の心を理解する者とならなければなりません。わたしたちは、永遠のビジョンを見て、知り、持たなければなりません。そのビジョンは、わたしたちを捕らえ、引き付けて、ついにはわたしたちに永遠の命を生きさせ、永遠の働きを行なわせます——ガラテヤ1:15-16. 2:20. 4:19. I コリント2:9-10. 6:17. 15:10. 16:10。
- B. 神の召しの望みは、「あなたがたの内にいますキリストであり、栄光の望みです」——コロサイ1:27：
1. キリストがわたしたちによって認識され、わたしたちによって経験され、わたしたちによって得られ、完全な程度にまで至り、わたしたちの究極的な現れと完成になり、わたしたちの栄光となることが、わたしたちの召しの望みです——ピリピ3:14. ローマ5:2。
 2. 神はわたしたちを召し、わたしたちを義としました。そしてわたしたちを栄光化し、わたしたちを彼の御子のかたちへと同形化します。最終的に、わたしたちすべては完全にキリストと同じになります——8:29-30. I ヨハネ3:2。
 3. 神の召しの望みは、キリストに対するわたしたちの享受の究極的完成です。それは、わたしたちの体の変貌であり、神の子たちの出現です——エペソ4:4. ピリピ3:21. ローマ8:19, 23-25。
- C. 聖徒たちの中にある神の嗣業の栄光の豊富とは、神がご自身をもってわたしたちに証印を押して、わたしたちを彼の嗣業とならせ、彼に享受させることについて語っています。また、神がご自身をもってわたしたちに担保を入れて、彼をわたしたちの嗣業とならせ、わたしたちに享受させることについても語っています——エペソ1:11, 13後半-14, 18：
1. 神の栄光にはその豊富があり、この豊富には、神の神聖な属性を構成

する多くのさまざまな項目があります。それらは、光、命、力、愛、義、聖などのようなものであり、さまざまな程度に表現されます。

2. わたしたちは神の嗣業ですから、聖霊はわたしたちの上にある証印です。神はわたしたちの嗣業ですから、聖霊はわたしたちに対してこの嗣業の担保です。
 3. 聖霊の証印と担保は、絶えず神の神聖な要素をもってわたしたちに浸透し、わたしたちを造り変え、わたしたちに享受させます。そしてついには、わたしたちは神の命において円熟し、わたしたちの体は栄光の中で変貌されます——11, 13後半-14節, 4:30, ローマ8:23, ピリピ3:21。
- D. 神の力の超越した偉大さ、すなわち、彼の復活する力、昇天する(超越する)の力、服従(征服)させる力、かしらにつり上げる(管理する)力は、「わたしたちの中で」活動しており、「信じるわたしたちに」であり、「召会に」です——エペソ3:20, 1:19-23:
1. 召会は、三一の神のこの超越した偉大な四重の力の蓄積される所です。
 2. この力がキリストの中で活動したとき、それは彼をかしらとしました。この力がわたしたちの中で活動するとき、それはわたしたちをからだとします。
 3. わたしたちはこの力の神聖な伝達を経験するために、この力がすでにわたしたちの中にあることを認識する必要があります——3:16, 20, ピリピ3:21後半, 4:13, コロサイ1:29。
 4. わたしたちはこの力の神聖な伝達を経験するために、完全に死から出てくるという強い願いを持つ必要があります——啓3:1, IIコリント3:6, 5:4。

II. エペソ人への手紙にあるパウロの第二の祈り(経験を求める祈り)において、彼が祈っている事は、わたしたちが神の唯一の働きのために、内なる人の中へと増強されて、彼ご自身をわたしたちの存在の中へと建造し込んでいただくようにということです——エペソ3:14-21:

- A. 16節から19節で、「ように」(that)という言葉が、使徒の祈りの中で四回、使われています。使徒は次のように祈りました。すなわち、御父がわたしたちを増強してくださる「ように」。そのように増強された結果、キリストがわたしたちの心の中に、ご自身のホームを造ることができる「ように」。キリストがわたしたちの心の中に、ご自身のホームを造られた結果、わたしたちが力に満たされて、キリストの大きさ、すなわち、その広さ、長さ、高さ、深さを会得し、知識を超越したキリストの愛を

知る「ように」。このように会得し、知った結果、わたしたちが満たされて、神の全豊満へと至る「ように」。これらの段階は、新陳代謝的な過程であり、それによってキリストのからだは、わたしたちがキリストの豊富を享受することを通して、キリストの豊富をもって構成されます。

- B. エペソ第1章では、わたしたちの霊は、一つの器官として啓示されており、それはわたしたちが召会に関する啓示を受けるためです。エペソ第3章では、わたしたちの霊は、パースン、内なる人であり、それはわたしたちが召会のためにキリストを経験するためです。わたしたちは、キリストを経験して、神の豊満へと至るために、聖霊を通して、三一の神の四重の力をもって、わたしたちの霊の中へと増強される必要があります。
- C. わたしたちの心は、わたしたちの内側の諸部分(わたしたちの思い、感情、意志、良心)の総合計であり、わたしたちの内側の存在の中心です。キリストがわたしたちの心の中に、ご自身のホームを造るとき、彼はわたしたちの内側の存在すべてを支配し、内側の諸部分すべてをご自身をもって供給し、増強します。
- D. わたしたちはキリストの経験において、まず彼が何であるかの広さを経験し、それから長さを経験します。わたしたちはキリストの中で前進するとき、彼の豊富の高さと深さを経験します：
1. わたしたちのキリストの経験は、立方体のように三次元でなければなりません。線のように一次元であってはなりません。
 2. わたしたちはキリストの経験において、行ったり来たり、上がったたり下がったりしなければなりません。それによって、最終的に彼に対するわたしたちの経験は、至聖所のように堅固な「立方体」になります——出26:2-8. 列王上6:20. 啓21:16。
 3. キリストに対するわたしたちの経験がこのようである(からだによって均衡が取られている)とき、わたしたちは倒れたり壊れたりすることはありません——参照、I コリント12:24。
- E. 最終的にわたしたちは、知識を超越したキリストの愛を知ることができます。そしてわたしたちは満たされて、神の全豊満へと至ります——エペソ3:19：
1. キリストの愛は知識を超越していますが、わたしたちはそれを経験することによって知ることができます。
 2. 神の豊満は、計り知れないほど豊富なキリスト(神の具体化)が、わたしたちの存在の中へと分与されることをわたしたちが享受した結果で

す。キリストは彼の内住を通して、神であるすべての豊富をわたしたちの存在の中へと分け与えて、わたしたちを神の豊満、すなわち、神の団体の表現とします。

- F. 神は、わたしたちの中で活動するその力にしたがって、召会に関してわたしたちが求めるすべてを、はるかに超えて豊かに成就することができるだけでなく、召会に関してわたしたちが思うすべてをも、はるかに超えて豊かに成就することができます——20節。
- G. わたしたちは神の栄光の豊富にしたがって、わたしたちの内なる人の中へと増強されつつあります。その後、神に、召会の中で、栄光があります。まず、神の栄光はわたしたちの中へと造り込まれます。その後、それは神へと戻って、彼に栄光を得させます——16, 21節。